
恋愛道負組的発想。

3007

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋愛道負組的発想。

【Nコード】

N5431E

【作者名】

3007

【あらすじ】

何処かに居そうなモテナイ男。その男に一通のメールが。その男が繰り出す妄想、そして勘違いの連続。モテナイ男の心の中を自分なりに考えてみました。

(前書き)

小説らしくない小説を書いてみたかったので、この作品は自分の夢を叶えてくれました。

「好きです。付き合ってください」

男なら少なからず大半の人が異性に言われたい言葉だ。しかし、この言葉を気安く聞けるのは一部の人間のみの話だ。

一部の人間以外は何かしらが無いと声を聞くことが出来ない。中には幾ら頑張っても『好き』のすの字も聞く事が出来ない人もいる。

その哀れな人間の中に自分も居た。

顔もダメ。頭もダメ。スタイルは完璧な柔道体形。収入は雀の涙程。この世にモテナイオリンピックがあつたら、自分は日本にどれだけの金メダルを持ち帰る事が出来ただろうか。

しかし、それも過去の話だ。

仕事先の女性。顔は可愛く。誰にでも気遣いしてくれる人で。スタイルはトップモデルと勘違いする程の持ち主。この世にモテムテオリンピックがあつたら、彼女は日本にどれだけの金メダルを持ち帰る事が出来ただろうか。

そんな、彼女から3分前にメールが来た。

仕事の関係で、ちらほらとメールが来る事はあつたので何ら不思議では無かった。

しかし、いつもと少しだけ違っていた。

何とメールにハートの絵文字が付いていたのだ。

最初は何ら疑問も持たないでメールをしていたが、どうもおかしく感じて来た。

最初は語尾に一つだけ。次は文章の合間に二つ。次は少し大きめの

ハートが一つ。

次は動いているハートが一つ。そして、次のメールには何とハートに矢が刺さっていた。

これを見た瞬間、自分のハートにも矢が刺さった。

しかし、自分は大学の時に先輩から聞いた都市伝説を思い出した

「女って興味がある人と無い人で、ハートを使い分けらしいぜ」

危なかった。危つく自分のハートは詐欺師の巧妙なトラップに嵌る所だった。

ありがとう、先輩。あなたの事を一生尊敬します。ありがとう、合コン王子。

そう。自分は弓矢如きで負ける弱っちい戦士ではないのだ。だてに25年間も無駄に歳を取ってない。

見破った。この女のトラップは見破った。こうやってモテナイ人間にはハートを使えば落とせると踏んだのだろう。そして、付き合ったらプレゼント地獄に落とすとして運が良ければヴィトンをゲット。こっとう魂胆だろう。

「ふんっ甘いぜ。こんなトラップじゃ自分を落とすことは出来ないぜ」

三畳一間の空間で自分は雄叫びを挙げた。

スフィツ

雄叫びの余韻が消えて部屋が静まった時、自分の脳裏に新たな観点が飛び込んできた。

「ちょっと待てよ。ヴィトンが欲しかったら自分みたいな低所得者より、もつと重役の人の方が効率が良いよな。しかも、仕事の知り合い相手にプレゼント地獄をするだろうか。しかも、彼女が送ってきたハートは全部で4種類。自分の携帯に入っているハートも全部で4種類。という事は使い分けしているとしても……」

我ながらナイスな推理だ。おそらく前世は名探偵だったのだろう。

「ふんつ。分かった、この難事件の謎は全て解けた」

決まった。三畳一間で決まった。

そう。彼女は恋愛に臆病なタイプなんだ。

だから、いきなり好きと言わずにハートを付けて送ってきたりしていたんだ。

そう。彼女は自分の事が好きなんだ。

そういえば、前から少しそんな感じがしていた。飲みに行った時も何かボディタッチが多いと感じてた。あれは彼女にとって好きのサインだったんだ。

それに気づけなかった自分も罪な男だ。

いやっ。そんな事考えている暇は無い。

今は目先のゴールにシュートを決めるのが先方だ。

「何か今日はテンションが高いね。何か良い事があったの？」

我ながらナイスなメールだ。

さあ・・・今まで胸に閉まっていた言葉を思う存分言っがいい。

ウゥーンウゥーンウゥーン

彼女からのラブメールが届いた。

ああ・・・自分があの魔法の言葉を聞く事が出来るなんて。

思い起こせば自分の人生の思い出に女性が居た事があっただろうか。いつも隣には男しかいなかった。しかも何かしらシャレにならない欠点があるメンバーだらけ。

そんなメンバーと過ごした誕生日。クリスマス。年に1回の2泊3日の旅行。これはこれで良い思い出だが、今の自分にはこの思い出何てゴミと化してる。皆には悪いが自分は親愛なる人と新しい思い出を造る事になった。

すまない、皆。みんな頑張ってくれ。すまない、合コン王子。

さあ。自分は愛の言葉を聞くとするか・・・

「ええ。そうですね。やっぱり感情が表に出ちゃったんですね。実は前から好きです。付き合ってください」

キュラキュラキラーン

「あっ天使だ。パパここに天使がいるよ」

「良いか。これは男が最も嬉しい時に出てくるんだよ」

「じゃあ。パパもママと会った時にこの天使にあったの？」

「いやつ。会った時は見なかったなあ。でも、ベッドの中では毎回会うよ」

「ええ。パパはベッドの中で何をやってるの？」

「それは内緒だよ」

「ええ・・・教えてよ」

「ねえ。教えてよ」

はっ。あまりにも凄すぎて痛々しい妄想をしてしまった。
ここは、冷静になってもう一度確認しよう。

「好きです。付き合ってください」

ふう……快感。

これは凄すぎる衝撃だ。ガキの頃に聞いてなくて良かったと感じる。
しかし、今はこの衝撃にうるたえてる場合ではない。これは早速返
信しなくては。

「ありがとう。嬉しいよ。こんな俺で良かったらお願いします」

はぁ……こんなメールを送れる程自分も進化したんだなあ。

しかし、これはヤバいな。
デートとかどうするんだ？ベタにデイズニーランドに行けば良いの
か？

でも、最初のデートは気軽にショッピングの方が良いのかな？
案外、自分の家に招待した方が良いのかな？でも、自分の家に来た

ところで何をするんだ？

そついや「私って以外と城オタなんです」とか言ってたな。城廻とかが良いのかな？

ああ・・・どうしよう。こういう事聞ける人って周りに居ないからな。

食事とかどうしようかな。夜景が綺麗なレストランってかなりの値段なんだろうな。

ていうか、デートって何円くらいが相場なんだ？

そついえば、最初のデートって何処まで行くのが相場なんだ？

イキナリ本番はやばいだろうし、キスまで行くものなのか？でも、最初からキスするとあれが目的みたいに思われるかな・・・

そついや、最初のデートで指輪を渡した芸能人が居たな。確か、男前だった気がする。

よっし。ここは男前方式を使って指輪をプレゼントしよう。

それじゃあ・・・早速銀行に行って金下ろしてこよう。

「あっ……来週までには返します」

「その言葉ねえ何度も聞いているんだよ。こっちは商売でやってるの。分かる？」

「いやっ。そこを何とか」

「あなたね。そんな、返す見込みが無いのに何で600万も借りたの？」

「彼……プレゼ……ヴィトン」

「まあ……どういふ事情か知らないけど、来週までにはきっちり返して貰うからね」

最初、指輪を挙げた時、彼女喜んでくれたんだ。

その笑顔が自分の物だと思ったら、次々とプレゼントしちゃって。挙句の果てには借金までしちゃって……

しかも、最初は頻繁に会ってくれたんだ。それが、週に1回。月に1回。挙句の果てには久しぶりに会ったと思ったたらすぐに帰る。そして、彼女の気を引こうとしてプレゼントを沢山あげた。しかし、変わるのには借金の金額だけ。

そんな関係が1年経った時にはとうとう連絡すら付かなくなった。

そして、心配していると風の噂で彼女の消息を聞いた。

「えっ。あの娘なら少し前に寿退社したよ」

もう少し詳しく聞くと3年前から付き合っていた人とゴールインしたそうだ。

親切にも男の写真まで見せてくれた。

その写真にはイケメンと美女。そして、可愛い赤ちゃんが居た。

ふっ・・・憎んでなんかいないさ。

少なくとも自分の元カノ何だから、幸せになって欲しいよ。

ウゥーン。ウゥーン。ウゥーン

合コン王子から一通のメールが届いた。

「ちよっ・・・俺、告白されたんだけど。やっぱり最初のデートは無難にデイズニールランドかな？やっぱ最後は夜景の見えるレストランで指輪渡した方が良いかな」

こうやって今日も世界各国でモテナイ男は騙されていく。

しかし、つらいのは借金地獄になる事ではない。少しの間でも最愛の人と思つた人に騙された事だ。

モテナイ男は誰よりもプライドが高く、そして人を愛する力を持つ人種だから。

(後書き)

最後までご朗読ありがとうございました。

出来れば感想及び改善点を教えて下さいましたら幸いです。

最後に女性の皆さんへ。

モテナイ男とはガラスのハートの持ち主です。利用するのは止めて下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5431e/>

恋愛道負組的発想。

2010年10月28日05時12分発行